

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170700167
法人名	(有)さわやか 門前
事業所名	グループホーム 門前
所在地	佐賀県鹿島市古枝甲1650番地 (電 話)0954-69-8208

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年2月22日	評価確定日	平成 20年3月31日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤 6 人 , 非常勤 5 人 , 常勤換算 4.9人	

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺	
	2 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000~23,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 朝、昼食代に含む 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.6 歳	最低 79 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 犬塚病院・みやび歯科医院・寺尾歯科(訪問)
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日本三大稲荷神社の祐徳稲荷神社の参道から少し入った所にある、民家改修型のホームである。「地域の行事に参加し地域交流を深め生活に変化をつける」という理念のもと、参道の商店街の近隣にあることから地域との交流の深い、環境と地域に溶け込んだ生活をされていた。ホーム内では入居者の意思が尊重され、職員とのなじみの関係ができ、安心して生活をされていた。またホーム自体が地域の「認知症ケアの理解」という大きな社会資源となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念については朝のミーティングやその都度話し合いを行い、全職員に浸透している。また市町村、地域と協力しながら「認知症を知る会」を発足予定であり、ホーム自体が地域の更なる社会資源としての役割が期待できる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価により新たに気づき、サービス向上に取り組み自己評価し、それを管理者がまとめられ、全職員の意識統一を図られている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、区長、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター、入居者代表、家族代表とさまざまな顔ぶれで開催され、地域とホームの情報交換が行われサービスの向上につながっている。また、地域との連携が年々強くなっており、社会資源として期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約書に苦情相談窓口が明記しており、面会時や家族会で情報交換をしながら、そこで意見等寄せられた時はすぐに対応をされている。また、入居者や家族の意見、苦情を表現しやすいように意見箱の設置を検討中である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>区長や民生委員と連絡を取りながら、敬老会に参加されたり、文化祭に作品を出品するなど、地域行事に積極的に参加されている。地域の受け入れ態勢も整っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の行事に参加し、地域交流を深め生活に変化をつける」という理念のもと、地域の方々と交流を深められるよう取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念どおりに日々生活できるように、朝の申し送りやその場その場で話し合い確認しながら取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の敬老会に参加し、町の文化祭に作品を出展したり地域の方々と交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、課題については毎月のミーティングの中で改善に向けた話し合いが行われている。課題内容によっては経営者も含めた話し合いがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、区長、老人会長、民生委員、家族代表、入居者代表、市役所包括支援センターなどさまざまな顔ぶれで意見交換がなされ、サービス向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームが社会資源として地域に貢献できるように、市町と話し合いながら「認知症を知る会」を4月以降開催される予定である。	○	「認知症を知る会」の発足とともに、更なるサービスの質の向上に期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回の家族会や面会時に個別的な報告がなされている。遠方の家族の方には電話にて報告が行われている。また、状況変化時には随時電話で連絡が取られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で上がった意見をサービスに活かされている。さらに意見、不満、苦情を表せることが出来る様に意見箱の設置を検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりは少ないが、異動や離職の際には最小限に伝えダメージを与えないように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を呼びかけ、積極的に参加されている。また研修報告会や回覧で全職員に伝達され、自発的に研修、勉強できるように支援が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士で交流を図っていききたいと思われているものの、まだ実施できていない。	○	ネットワークを作り交流の場を設け、サービスの質の向上ができることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染む事が出来る様に入居者の話をじっくり聴き、家族ともよく相談をしながら支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で一緒に笑い、涙ぐみ、入居者の長年培われた得意な事を發揮してもらい、学び合い支え合う関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりを通して入居者の思いや暮らし方の希望、把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族会にて入居者、家族、職員との話し合いが行われ、個別的かつ具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しが行われ、状態変化が見られた時は状況に即した新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の要望に応じ通院の支援を行うなど柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望される馴染みのかかりつけ医で継続して受診できるように支援されている。緊急時でも対応してもらえる体制が整えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から重度化や終末期のあり方についての話し合いの必要性は感じられているが、取り組みはまだされていない。	○	入居者、家族また医療機関と終末期に向けた話し合いを繰り返し行い、その意向に基づく終末期の対応指針等を作成し、関係者全員で共有できるようにされることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩に対する誇りやプライバシーを損ねない対応のあり方を話し合わせ、声かけや誘導など配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大事にし、寄り添いゆっくり話を聞きながら、その人らしい生活ができるように支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせた、調理や片付けの支援がなされている。また建物の構造上2箇所に分かれて食事を摂られ、入居者の相性にも配慮され支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望、身体状態に合わせて午後から行われ、いつ入浴してもいいように毎日準備し、柔軟な対応がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お弁当を持っての外出やホーム内での趣味活動が行われ、入居者の楽しみや気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事ごとで外出されたり、定期的に少人数で分かれて外食されている。また、要望があると職員と一緒にできるだけ戸外に出かけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	台所にお出かけモニターを設置し、職員が常に見守りをされている。また地域の方の見守りや協力が得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方、消防団や消防署と年に2回避難訓練を実施されている。また消火訓練、救急救命訓練も地域を巻き込み実施されている。地域に向けてのAEDや広報スピーカーも設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外での水分摂取が出来る様に、工夫されながら水分摂取に努められている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる事が出来る様に花を飾ったり、くつろいで音楽を聴いたり、読書を楽しめるように空間作りをされている。	○	入居者の方が安心して生活できるように、入居者の身体状態(重度化)に合わせ、浴室の段差への工夫など、設備への工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着いて過ごすことが出来る様に、その方が一番思い出深い建物や自宅を描いた絵を飾るなど、入居者や家族が思い思いに居室を飾られている。		